

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、5番山口良広議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。最後の登壇ということで、皆様からいろんな意味で期待されております。私なりに責務を一生懸命全うし、武雄市発展のために頑張りたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

前の古川議員とは、ありましたようにチーム武雄のメンバーとして私も3班の仲間として陸前高田市のほうに行きました。私は農業者です。そんな中で一番感じたのは、潮水を受けた畑で10メートルに近い高いところでハウレンソウや白菜、大根が元気に育っていました。ああ、農業というのは捨てたものじゃないなということをつくづく感じたわけです。

そんな中で、そこのおじさんと語りました。いろいろ災害はあるけど、農業ば一生懸命しようないばよかばいということで、私たちは畑の開墾というものをお手伝いしたわけです。そこは、もとは屋敷が建っていたところをスコップや前打ちで耕しながら、石や瓦れき、ガラス等を拾ったわけです。そして、最後には大根をまくまでになりました。今後、農業者としていろんな形で災害派遣があれば、我々は今後、農地の修復のためにできるようなボランティアがあれば、もっと行ってみたいなというものをつくづく感じたわけです。

そんな中で、今回、私は一般質問では農業問題、TPP問題における武雄市農業振興対策を取り上げようと思っております。それと、道路対策についてお尋ねします。

ここで質問です。環太平洋パートナーシップ協定、いわゆるTPPはどんなもので、これで日本国としてどのような影響が考えられるのか、まずお尋ねしたいと思います。

〔24番「私語をせんで市長として答弁してよ」〕

〔19番「答弁はすっくさんの」〕

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

谷口議員にちょっと注意してくれんですか。やっぱりですね、ああいうふうな陰口をこういうふうに表の場で言われるということになると、せっかくまじめに答弁しようというふうな人たちが本当にかわいそうですよ。これ、宮本議員が怠慢部と言うたのと一緒です。ですので、議長までしんさった方がね、そがん細かことばもうくだくだ言うとはね、僕はどうかと思いますよ。

答弁をいたします。

その中で、TPPというのは、簡単に言えばですね、関税をゼロにする。そして、日本と加盟国アメリカの独特な商干渉があります。これをなるべくアメリカ型の統一したルールにしましょうということが、2つがポイントなんですね、TPPの。

日本の課題というのは、じゃ国益として、医療分野とか26分野ありますけれども、農業もそうですけれども、これに乗っかることが国益として本当にいいのかどうかということなんです。ですので、全部、私はTPPがだめだと言うつもりはありません。例えば、僕は医療なんかはTPPに入ったほうがよかと思うとですよ。がんも閉鎖的なところでね、もう高い医療で、確かに吉川議員がおっしゃったように、世界一の医療というのはそれは私も認めますが、がん不平不満の出るところはなかわけですね。そがんところは、もうTPPに入って鍛え直したほうがまし。しかし、農業は別です。やっぱり関税があるけんが守られておる部分というのはあるわけですよ。そういったことで、全部TPP反対とかということよりもね、一つ一つに向けてこれはいいとか悪いとかというのを判断するのが必要だと思います。

ただ、問題は、もうみそもくそも一緒なんですよ、TPPは。農業だけ入りませんとかというのはできんわけですね。全部含めてありますので、そういった意味で私は、これは公明党も同じことをおっしゃっていますけれども、TPPについては全体としては私は反対です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私は、農業についてこの問題を検証したいと思っています。

私は、米を考えたときに、関税率は700%と言われております。仮に現在の米価を60キログラム当たり1万6,000円とします。それが段階的に10年かかって7分の1となり、2,700円の国際価格となったとします。日本の、武雄の農業はどうなることでしょうか。その前に、米の米価が外国からの輸入米との競合で3割安くなったと考えますと1万2,000円です。そうなった場合、共同乾燥施設のライスセンターや減農薬でコスト低減の農薬散布、ラジコンヘリ等は利用がなされるでしょうか。確かに民主党は戸別所得補償ということで農家生活は守ると言っています。本当に信じていいのか、それだけを信じて今のままでいいのか、武雄として何か施策はないのか、それを私は検証したいと思います。

パネルを紹介します。（パネルを示す）ちょっと私の腕ではパソコンから持ち込みましたら、ちょっとずれまして、これが僕の技術ですので、この後、寺子屋でも行って勉強したいと思います。

これは大型のコンバインで稲刈りをしている風景です。そして、これはカントリー、米の貯蔵庫です。こういうふうな形で米を貯蔵しているのが稲作農家です。これはアメリカの稲作農業地帯です。（発言する者あり）その前に、まずパネルでアメリカ、オーストラリアの

農業を紹介しますということの語句を忘れていましたので、すみませんでした。

その後が、（パネルを示す）これもアメリカの畑作農業です。これはパイプラインです。このようなパイプラインの先に水を流す装置ができておりまして、かん水をしたり消毒をしたり、延々と先まで続いているわけです。

こういうふうな農業をやっているのがアメリカです。100ヘクタールとも1,000ヘクタールともいわれ、農場では大型の機械と飛行機を利用しての農薬散布、種まき。しかも日本の気候とは大違いで雨量の少ないところでの農業、それだけでも病気の発生も少ないのです。しかし、地下水の大量くみ上げなど自然破壊をやっております。

次です。（パネルを示す）これは2011年10月31日に世界の人口が70億人を超えたという資料でございます。1950年、くしくも私が生まれた年、25億人。そして、私が38歳のとき、38年たってから50億人、倍になりました。それで、それから22年、ことし70億人です。そして、2050年、私が100歳になったときに93億人という人口になるわけです。このように世界の人口はふえているわけです。国際連合食糧農業機関によれば、こんな中で毎年500万人以上の子どもが飢えて死んでいる。3秒に1人の割合、毎日3万人以上の子どもが栄養失調や予防可能な病気で亡くなっています。そんな中、日本はいつまでも食料を世界に頼っていいのかということです。

また、この前の日曜日、医師会館で行われました地域医療を考える講演では、北海道の夕張のセンターの村上センター長の講演がありました、先ほど吉川議員が言いましたように。その中で、私は大事なところを感じました。大豆は食品の中でも健康食品である。しかし、今の大豆は不健康食品の代表でもあるとも言われました。それはポストハーベスト、すなわち生きた食品だから、アメリカから日本に来る間に腐れてはいけなから、認められている殺菌剤をしこたま散布されて日本にやってくるわけです。薬剤散布の基準は守っているけれども、安全な食品ではないと言われています。（「そうだ」と呼ぶ者あり）私は、大豆は遺伝子組み換えさえなければ安全だと思っていたのです。しかし、現実はそうでないと聞きました。

その点を含めて、次に市長です。日本の食料事情、農業政策をどう考えられるかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕の意見は少数派だと思いますけれども、あえて言うと、日本の農業は徹底的に保護をすべきだと思います。もう補助金は入れてですね。もうこれね、安全保障なんですよ。食料がなかところに、だれが発言力のあるですか。

それと、もういっちょですね、私はたまたま総務省時代にアメリカに出張したことがあり

ます。サンフランシスコに帰るときに、ちょっとおもしろかとは見すっけんと言って大使館の人に連れて行かれたところが港でした、サンフランシスコの。「これ何ですか」と聞いたら、グレープフルーツのもう山ごとコンテナにあったですもんね。そこにシャワーば幾らでんかけよんさつとですよ、ばしゃばしゃやって。「これはきれいになってよかですね」言うたぎんた、「ふうけたこと言うぎいかんですよ。これは全部農薬ですよ」と。もうそいば聞いた瞬間、もう食べる気うせたですもんね。日本の話じゃありません、これはアメリカです。そういう説明もありました。

そいぎ、「これアメリカの人は食べよんさあと」で聞いたとですよ。うんにゃ食べよんされてんて。日本に出すとば、さっき言いんさつたごと、腐らんごとすつためにこれ出しよるて。そいぎ、村上先生も大豆も同じと言いんさつたですもんね。そいけん、大豆ばいっぱい食べよるところ、外国産ですよ、食べよるところはやっぱり発がんリスクの高かかもしれんというところまで言いんさつたです。

そいけんが、何を言いたいかというのと、やっぱり我々が食べんばいかんとは、橋下の大豆とか橘の米とかですよ、もう目に見えてやっぱり良心、良識あるお米なり農産品ば食べるとはですよ、それがひいては国民の、良広議員も私も健康を守るすべなんですね。安かけんがよかろうもんじゃなかわけですよ。スーパー見るぎわかるじゃないですか。豆腐の1個ですよ、この前、8円というとのあったですよ。8円ですよ、豆腐が。（「8円」と呼ぶ者あり）うん、セールスで。それ、ぱつと見たぎんた中国ですもんね。もういっちょこっちにね、14円というとのあったです。ぱつと見るぎんたアメリカの遺伝子組み換えの何とかと書いてあったですもんね。それで、こっちに国産とのあったです。確かに高いですもんね、1個200円ぐらいします。

これは、消費者にも強く言いたいと思います。安くてよいというのはありません。やっぱり高くても、それは自分の子どもたちとか御家族の健康を守るためにはね、やっぱり国産品を買いましょう。それは、単に農業生産者に言うだけでは酷です。やっぱり真心込めてつくってくださいとば我々は買わんばいかん。そういうことをね、ぜひ消費者の皆さんたちにも訴えたいと思います。これ、だれもマスコミはやっぱり書かんとですよ、そのことは。もう保護が悪かとかすつぱたの書いてね、それは間違いです。やっぱりそういうふうに農業のやっている方々の所得が上がり、そして、つくってくださる方を我々が地産地消をするということを強く訴えていきたいというふうに思います。同じですよ。

〔5番「はい」〕

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

（パネルを示す）この表は日本の食料自給率ということになっております。オーストラリ

ア、カナダ、アメリカ、フランス等は173%、168%と上がっていますが、日本はここでは、39%です。いろいろ言いながら、いろいろ汚染されたものを食わなくちゃいけないのが今の現状の食料ということを理解してもらいたいと思います。

では次に、武雄の農業政策を検証したいと思います。

まず、集落営農についてのお尋ねです。

米、麦、大豆についてはコスト低減と大規模化が必要とされています。そのためには、市内でも10町歩あたりをつくる大規模なる経営者もおられます。それと、集落営農での取り組みが行われています。10町歩の大規模なる経営者が独立することも大事でしょう。それと同時に、今の武雄の農業を考えますと、集落営農が大事だと思うわけです。

そこで質問です。市内ではどれぐらいの集落営農の数があるのか、そして、その中でモデルになるような営農組合があったら紹介してもらいたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

市内の集落営農組織の数は47組織でありまして、そのうちでも農業共済組合で、組織で加入している共済資格団体というのがありますけれども、これは27組織です。

それで、モデルになるような営農組織ということですが、水稲、大豆、麦の農作業の受託を行っている中野みつばの集落営農組合と、あと共同乾燥施設を核とした大規模経営、これは220ヘクタールですが、営農経営の省略化を目的に大型農業機械導入による基幹作業の共同化を行う橋下営農組合などがあるかと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今言いました中野みつば、そして小池議員がしておられます橋下の営農組合、それに私は朝日にあります繁昌の営農組合、これも特徴があると思います。繁昌の営農組合というのは、自分たちが持っていた農機具を大事に使いながら地域でまず農業をやり、それを集団の中でやるということです。それは中野みつばも一緒です。でも、一番大きなのは、中野みつばは集団で経営し、田んなかを一つ一つ、次の田んぼ、次の田んぼというふうな形で作業をこなされていきます。その2つはコストが大分下がっております。それをまとめてやっているのが橋下のライスセンターの組織ではないかと思っております。ぜひこんな集落営農というものを今後推進してもらいたいと思っております。そのためには、この3つの地域の特徴と言えば、納得するまでの話し合い、そしてみんなの土地でありながら、自分の土地は大事にして草刈りや草が生えていたら草取りなどの作業、そしてガラス張りの会計と、この点が個人の力でできるもの、共同の力でやるもの、会計の健全化、そして何よりも包容力のあるリーダーが

おられるということです。こんな組織の中で武雄の米、麦、大豆の振興をぜひやってもらいたいと思います。

次に、施設園芸や畜産に対する振興策はどんなものがあるのかお尋ねしたいと思います。

ハウス資材の高騰、飼料代金の高値、それに加えて販売価格は安く抑えられています。そんな中で、キュウリ、イチゴ、畜産物のブランド化、そして農業所得の向上、大事なことと思いますけど、これに対して武雄市としてどう取り組んでおられるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

今、武雄市で生産されている農畜産物の中では、キュウリを初めイチゴやチンゲンサイ、ゴーヤ、アスパラ、それに若楠ポークなどがブランドになりつつあるかと思っております。外国産や国内のほかの生産地と価格や品質で競争できるような特色のある地場農産物を育成することが大事かと思っております。そのためにも、産地の団地化、あるいはフェイスブックを使ったF&B良品TAKEOでの情報発信、あるいは地域限定、これは武雄に来ないと食べられないといったような、そういった特色ある製品をつくっていくことが大事かと思っております。そのことによって武雄市の農畜産業の活性化を図ることが、農業者の生産意欲の向上、持続性のある農業につながっているかと思っております。

そのためにも、施設園芸や畜産、農産それぞれ技術支援や各種補助事業がありますけれども、そういった事業を活用して意欲ある農家の育成、振興を図っていききたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、冬場になりまして、ハウス農家では油がまた上がるんじゃないかということで大分心配しております。事実、また上がっております。

そんな中で、武雄市ではいち早く三層張りということで、ビニールの多層ビニールということで被覆の取り組みもなされております。ぜひ先進的な技術等がありましたら、農業改良普及センター等の指導を得ながら、ぜひいち早く取り入れられてコスト低減への道というものもつくってもらいたいと思います。

それと同時に、武雄市長はトップセールスとして元気な力を持っています。いろんなところへ市場あたりのお願い事で生産者も行っております。そんなときは、ぜひ農協と市役所の担当とが連携をとりながら、都合のつくときに一緒に足を運んでもらって、デパートでの販売等に御協力してもらいたいと思います。よろしくお願ひしたいんですけど。

〔市長「答弁」〕

お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

よろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういう声が届くように風通しをよくしてやりたいと思います。

それと同時に、先ほど言いましたフェイスブックあたりも大事な情報源、最大の情報源だと思いますので、武雄には山口昌宏議員が言われましたような温泉美人とかいろんな形で、今特色ある農産物が生産されております。それらの販売が元気になれば、それが大きな産地につながるというものを思っておりますので、その点もよろしく願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどちょっと答弁を吉川議員のときにし忘れたんですけれども、F&B良品TAKEOの中で売れているベストスリーが鍋セットと、次、野菜なんですね。野菜と、あとはちょっとまちまちなんですけれども、その野菜もどこで売れているかという、意外なことに東日本で売れよるとですよ。やはりそれはさきの東日本大震災の影響があって、なかなか生産ができないとか、あるいは誤った風評が広がっているという結果、とにかく九州の農産品に対する需要というのは思った以上にあります。ですので、F&B良品TAKEOでは、手数料はゼロです。やっぱりこういう農産品がありますよというのを、ぜひ私どものほうにお寄せいただきたいと思います。特に根菜類なんかはもちますので、それを昔、ロバート・デ・ニーロと言われた山口良広議員の顔写真をつけて、それで出すと、それを消費者の皆さんたちが安全・安心と思って買ってくださいと。

だから、今まで、先ほどの御田中（みたんなか）米もそうなんですけれども、なかなか市場に出なかったものをそういったことで出せると。しかも、これは吉川議員がおっしゃったように、お店に行かなくて宅配ですので、そこで買えるということからすると、これは物すごくマーケットに、市場になると思いますので、もちろんトップセールスはやりますけれども、ぜひですね、山口良広議員は農業界では物すごく力があられます。ですので、ぜひその呼びかけをお願いしたいというふうに思っております。

J Aについては小池副議長と連携をしながら、そういったオール武雄の農業としていろん

な直売であるとか、通販であるとかというのを売っていくように、私自身も全力を挙げて支えて応援をしていきたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。ぜひ、今度は私、認定農業者等の会議等で今のフェイスブックあたりのことを紹介してメンバーを募るような形で取り組みたいと思います。

先ほどのパネルで紹介しましたように、日本とアメリカ、オーストラリアと大きな違いは、日本は平野が少なく、武雄でも同じですが、山が多く田んぼの面積が狭い、雨が多いために用水路、排水路が生活水の排水路も兼ねている。その維持管理のために年四、五回の草刈りや用排水路の泥揚げなど維持管理作業をしなくてはならないのです。それと水害対策、環境保護のためにも重要な作業となっております。でも、その作業は直接には農業所得には結びつきません。

そこで、私は今ある農地・水・環境保全向上対策事業は大事な事業で、今積極的に農村部では活用されています。今後この事業はどうなるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

次期対策としては継続の方向でありますけれども、まだ具体的な指針が示されておられません。今後、国、県の説明会等を受けながら推進をしていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、今、公役等の関連の中で農地・水・環境ということで草刈りや溝揚げができております。また、昨日のイノシシ対策の中でも11月ごろに草刈りをやるのとやらないのでは大きな違いがあるというふうなことも言われました。その対策として、この農地・水・環境保全向上対策事業というものは大事なものがありますので、ぜひ継続してされるようによろしくお願いします。

次に、後継者対策です。

武雄市における過去二、三年間のUターンを含めて新規就農者があれば教えてもらいたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

新規就農者の数ですけれども、武雄市では平成21年に4名、平成22年に9名、平成23年に8名と計21名の方が就農されております。ことしの平成23年の8名の方の就農の経営部門に見ますと、稲作が1名、露地野菜が1名、施設野菜が1名、肉用牛が2名、養豚1名、ブロイラー1名、その他1名となっております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、数字的に発表してもらいますと、結構21名と言えば私も意外に多いんじゃないかなというのを感じました。ぜひ、その中でわかったら、若い世代の方の年齢的なことでもわかったらいいと思いますけど、それは省略します。

そこで後継者対策です。

国の食と農林漁業再生のための基本方針行動計画が示されています。以前、農業新聞にも載っていましたが、青年就農支援がT P P対策とは別に確認されて行われるということが提言されていました。その内容はどんなもので、武雄市としてはどう取り組むつもりなのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

地域の農業の維持のためには、新規就農者の確保が重要ということは認知をしております。本事業の要件等が明確にはまだ示されておりませんので、明らかになり次第、対象となり得る新規就農希望者等へ事業を周知していきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、この対策というものは、我々農業者から見れば魅力ある対策になりそうです。

その中で、今、私たちの世代が後継者を継がせようか、継いでもらいたい、しかし今の農業の中ではその子どもに給料をやってまで生活をさせることはできない。仕方なく出ていって外で稼いでくれというのが現実です。その対策に、ほかならぬがこの事業だと思っております。その内容を吟味して武雄に合うような形で紹介して、一人でも多くの子どもたちが、青年が農業を継ぐような組織づくりを提言してもらいたいと思います。

次に、農業高校についてです。

県内には5つの農業高校があります。白石の佐農、ちょっと今は名前が変わっていますが、佐賀農芸、神埼、唐津、伊万里と5つの農業高校があります。そこで、私たちが農業高校に学んだ40年前には9割以上が農業後継者として家業の農業を継いだものです。そして、武

雄市内にも私の同級生は10人以上が農業を継いで、今、地域の中核として農業者を引っ張っているのが我々の仲間だと思っています。それが今はどうでしょう。先ほど数字にはありませんでしたが、高卒の新規就農者はゼロに近いのではないかと思います。恐らく県内でも、どこの市町村でもそう変わりはないと思うのです。

そこで、私は提案したいのです。私は、今ある農業高校で農業教育ができ得る環境が将来にわたって保障できる農業高校を佐賀県に1つ、農業後継者を育てる全寮制の佐賀県立農業大学の附属高校としてあってもいいのではないかと思います。その中で農業を志す高校生を育てる。私は市長にお願いして、何かの機会に提案してほしいと思うのです。ほかの農業高校は今までのように農業や食の安全、農業土木の技士を育てる教育など農業高校としてあっていいと思うのです、今のままで。しかし、今のままのような農業高校生を育てていきますと、農業を志す子どもは少数派になり、夢を持たないような気がするのです。それは、農業をやろうという仲間がそこにいないからです。今のままでは農業後継者は育たないのではと思うのです。ぜひ、市長の見解を聞き、どこかの時点で行動に移してもらいたいと思いますが、いかがなものでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これね、もしつくっても、趣旨はよくわかるんですけども、これは学校を新たに作るにしても、やっぱり自分が例えば卒業したときに職があるとか、所得がどうかといったときに、やっぱりそっちもちゃんとしとかんばいかんですもんね。

ですので、私とすれば、やっぱりですね、例えば湯布院です。湯布院はデータから見ても農業所得者の所得が非常に高いです。というのはなぜかといったら、各旅館とかホテルが優先してそこから、例えばクレソンやったら朝長議員のところとか、あるいは鶏肉やったら山口等議員のところとか、というふうにしてそういうふうにもう直で買いよるわけですね。そうすると、物すごく計画が立てやすいというのと、やっぱり所得の一定以上あるわけですよ。そこば目指してと湯布院ブランドが加わって、そこば目指して農業経営者になりたいという声は結構あるんですね。

ですので、我々からすると、今、武友会ですよ、私も呼ばれて行って実際食べましたけれども、こういった皆さんたちを応援を、もっと出るようにですね、若手の農業経営者を出して応援をするのと同時に、武友会のような広がりやがどんどん出ていくことによって、ああ、やっぱり農業ばすとは格好いいと、それとやっぱり稼ぎになるもんねというところまで持って行ってやらんぞ、学校をつくってもやっぱり、それが悪かとは言いませんよ、悪かとは言いません、いい案だと思いますけれども、それだけではやっぱり私は厳しかというふうに思っています。

したがって、我々からすれば、温泉美人の話も出ました。いろんな話も出ています。米とかですね。今、ひょっとすれば三越が武雄の米を取り扱う可能性も出てまいりました。これは小池議員にちょっとお願いをして、そういう運びにどうもなりそうなんですね。そういったことで販路をちゃんとつくってあげて、それが地域の所得に結びつくように、これからちょっと本当にもうまじめに本腰を入れていきたいと思っています。

今まではともすれば、やっぱり足ば引っ張られることも多かったですもんね。市民病院の民間移譲であるとかさまざまあったんですけど、そういった足を引っ張るエネルギーを今度は売り出すエネルギーに変えていく。ともすれば逆風を順風に変えていくというのが、首長としての私に課せられた役割だというふうに思っておりますので、ぜひそういった意味での力を発揮していきたい。

それで、最後にしますけれども、ぜひ消費者の皆さんたちをお願いしたいんですよ、市民の皆様方に。例えば、物産館であるとか、あそこのツタヤの横は何て言いましたっけ。

（「マックスバリュ」と呼ぶ者あり）マックスバリュもそうです。ゆめタウンもそうなんですけれども、今、地元の生産者が出しとんさあですよ。あら、写真があったですよ、若かりしころの、マックスバリュに。そいぎ、私はそれば避けて買いますけど、冗談ですけどね。だから、そういうふうに生産者の顔が見えて名前があるところをね、ぜひ消費者の皆さんたちには買ってほしいと思います。それが農業を拡大して回す応援になるわけですよ。それは重ねてお願いをしたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

販売対策、あくまでもそれが一番大事です。しかし、高校時代に夢を見ていろんなところに実習に行ったり、お話、しゃべりながら人生を語る、それが学生時代と思います。その子どもたちのためにも、ぜひよろしくお願いします。

次に、農産物の付加価値をつけて販売する農産物の6次化に対する取り組みです。

私は、ぜひ今まで市長は目を向けている中国であり台湾、香港、生の農産物の輸出、それも大事でしょう。それを生のままでなくカット野菜にして冷凍食品に米やモチ米、大豆を炊飯したり、もちや赤飯、大豆加工などいろんな加工商品が考えられると思うのです。それを世界の最先端に行く冷凍食品にして輸出する。宮崎県西都市には宮崎経済連がカット野菜の工場をつくり、野菜の付加価値をつけて販売しております。ぜひ、武雄は近隣の農産物の集積地として佐賀県経済連の力を佐賀県農業と手を取りながらいろんな販売対策、それも重要な一つと思っています。ぜひ、武雄の工業団地にはニチイ、味の素など食品加工企業誘致を視野に入れていろんな販売、ぜひ農産物の販売振興もやってもらいたいと思います。その点

についてどう思われるか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

わかりました。

〔5番「よろしくお願ひします」〕

○議長（牟田勝浩君）

まだです。まだ指名しておりません。

質問の途中ではありますけれども、もうすぐ12時になります。5番議員と先ほど確認しましたら、ちょっと入り込んでもしていただければということなんですけど、皆さんいかがいたしましょうか。継続してよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、継続したいと思います。

では、5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

農業で一番大事なのは販売対策だと思っています。その点もよろしくお願ひいたします。次に、最後の質問になります。

私は6月議会でもこの問題を取り上げました。武雄北方インター工業団地ができれば、朝日から武雄から行く近道は農道しかないのに、これが工業団地がオープンしたら混雑してどうもこうもならんじゃろうということで、どがん、なしわからんとかにゃということで思っていたわけです。ぜひ検討ばしてくれんですかということで思っていました。

そして、ある先輩と話していたら、「そがん言うないば、あんた調べてみんや」て。そいがないば、答えは現場にあるはずばいということであったので調べてみました。（パネルを示す）それがこの結果です。朝の7時から7時半まで、8時まで、8時半まで、9時ということで、こちらは北方のほうから朝日のほうへ、こちらは武雄から北方のほうへということで2つがあるわけです。そしたら、朝の7時から7時半までには朝日のほうへは2台、北方のほうへは11台、8時までには4台、28台ということでこのような数字が出ました。もっとたくさん車が通るものと思って期待していたわけです。しかし、いざあそこに立って見ていると、答えはわかりました。この農道を入れて498号の道路に入るところは、若木から北方まではもう数珠つなぎでつながっております。そこに農道を通った車は、もう入ることができませんでした。ああ、こんな中ではどがんこの道を改造してもやっぱり無理じゃなということ……

〔市長「そうやろう」〕

もう、やっぱり見てみんば、答えは現場にあるということがわかりました。

〔市長「そうそう」〕

そういうことで、今度は反対に土曜、日曜日にこの現場を見に行ったわけです。そしたら、国道の通行量は少ないですので、ひっきりなしにこの道路は通っておられます。結局、通勤のための道路ではなく、やっぱり生活の道路だなということを感じたのが私の答えです。

だから、私は今からこの問題であそこの農道を拡張より498号のバイパスをいかにして早くつくってもらいまして、武雄北方インターの近くの整備ができ、あのバイパスができて、その関連する道路網の整備というものをいち早くしてもらおうのが、この武雄北方インター工業団地への通勤者の道だと思いました。ぜひ、この点について市長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お考えはその通りだと思います。それに沿って武雄市議会においても一生懸命されておりますので、本当に御納得されて私はうれしく思っております。

先ほどちょっとごめんなさい、答弁漏れが1個ありましたので、ちょっと申し上げたいと思います。

農産品の販路については、やっぱり縮小する国内だけじゃもう無理なんですね。それで、今度、佐賀県が我々の提案を取り入れて瀋陽、上海、そして香港に今度事務所を今開設されて、香港については1月10日に開設予定です。特に香港の事務所開設に当たっては、稲富正敏県議がもう一生懸命知事におっしゃっていただいて、そこで開設の運びになりました。さすが知事も、香港にきちんと置くというのはお目が高い。香港がオール中国の一つの拠点、窓口になつとるわけですね。そこに我々としては積極的に応援をしたいと思っております。

要するに、今、例えば米であるとか、大豆の加工品であるとか、例えばイチゴでもそうです。香港を通じて中国がもう爆発的に求めておるわけですね。そこに我々は積極的参入をしていきます。

ただ、そうは言っても道しるべなくして行くのは非常に危険です。ですので、今度このためにうちは職員を採用しました。（パネルを示す）私と同年代で中国語の達人であります。中国の企業に十数年勤務した経験があつて、中国全省を踏破した男であります。笠原といいます。この笠原を我々は任期つき採用として採用をしました。今度、武雄市の職員として香港事務所に出します。彼が、もう口が物すごいききますもんね。ですので、その彼が日本語より中国語のほうがうまいです。ですので、そういった物すごく押しの強さと迫力と人的なネットワークをおかりして中国全土に広がっていくような応援をしていきたいというふうに思っております。

重ねてではありますけれども、もう国内だけ目を向けていっても無理です。ですので、飛

躍する、特にアジアを念頭に置きながら、我々としても販路の開拓にまた努めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

これを持ちまして私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で5番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

〔24番「議長、議事進行」〕

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）

山口良広議員の質問中でしたので、お待ちして、終わるのを待って今議事進行を出しました。

実は、山口良広議員の質問の冒頭ですね、市長が、いわゆるそんなことはだれでん知っとるという発言をした後ですね、私はちょっと気になったから山口議員にはっきり、ゆっくり山口議員の質問に対して答えなさいということを私申し上げたところ、自分が立ち上がって、私に対して陰口をしたとかいうような議員というような表現をした。私は陰口をするような男じゃありませんよ、堂々と言いますよ。

そしてもう1つは、元議長というそういう表現をされました。私は確かに合併前の議長でしたよ。ですけれども、武雄の例えば私がそういう者であればそう言われてもいいですけれども、問題は、大事なものは、前の武雄市議会までがそういうふうに侮辱されたような気がしてどうしようもなかったんですよ。

そしてもう1つは、自分が先ほど議会でも、役所の職員でもない、議員でもない方に対してああいうふうな表現をされるとかね、そういうことについて、私は議長に私はお尋ねしたい、議事進行ですから聞いているんですよ。市長に言っているわけじゃないですよ。そういうふうな発言をきちっと議長が注意をすとか、あるいはそういう発言をとめさせるとかということを、きちっと議事の進行内でしてもらわんと、もとの本旨と違うような格好で進んだりするような気がしてどうしようもないわけですよ。もちろん議長が注意してもらっているのはよく承知していますけれども、今回の山口議員の発言に対して、何か笑ったような感じで、そんなのだけれども知っておるとかね、議事録見てきなさい、そういう聞き方を私したわけですよ。

それで、私はほかの、いわゆる議会外の人に対する発言があったときに、私は前の山内の議長にお尋ねしました。山内の議長でもこういう発言を許しておったねと。いや、そういう事例はなかったということでした。黒岩議員にはお聞きしようとしたときには席をお立ちな

っていますのでそれは聞いていませんけれども、少なくともよその議会でもそういうことはあっていないと私は思うんですよ、お話聞けませんでしたけれども。

私が言うのは、そういうふうなことに對して、実は一般質問はこれで終わりますので、いわゆる発言を取り消すとか陳謝する、あるいはそういう機会がなくなりますので、あえてお尋ねしました。議長、どういうふうに諮られますか、お尋ねします。（「いろいろあっくさ」と呼ぶ者あり）

〔19番「ひとり言ばどがんして取り上ぐつと」〕（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

先ほどの議事進行にお答えいたします。

議事の進行ということに関しましては特には問題ないと思いますけれども、発言の内容に関しましては、その都度、自分で判断いたしまして発言者、そして市長、本日もそうでありました。一応注意はしております。

先ほど言われました陰口とか元議長という発言はどうかというところなんですけれども、それは私は言葉のキャッチボールの部分で全然問題はないと思っております。

第三者の名前が出たということですがけれども、この議会、旧武雄の議会のと時から第三者の名前は出ておりました。ここで例は言うことはできませんけれども、結構出ておりましたので、それも容認しております。

そういうふうないろんな発言に関しましては、私自身、例えば本会議中、そして終わった後にも、例えば樋渡市長、その他執行部、議員に関しても一応指導はしているつもりでございます。

以上でございます。（発言する者あり）

議事の進行につきましては、以上でございます。

〔市長「ルール守れよ」〕

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）

今、私ここに立っております。議席におりますので、さっきのは訂正していただきたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）

杉原前議長にはお尋ねをしました。皆さんの前でお尋ねしたわけですよ。黒岩議員はお尋ねしようとしたらいらっしやいませんでしたからしなかったということで、今。

〔23番「そのときや」〕

そのときの話よ。

[23番「はいはい」]

私は、そういう失礼なことしませんよ。そういうことですからね。私は、議長に申し上げた、いや……

○議長（牟田勝浩君）

谷口議員、議事進行とは議事の進行に関して質問することであって、私がこう言われた、ああ言われたという部分はいりませんので、それは後で議長に申し入れということで申し入れてください。

[24番「いやいや、そうじゃなくて、そういうことについてはどう処理をされますかというのを言っていますから。市長は黙っておきなさい」]

[19番「黙っておきなさいというとはおかしかろうもん」]

[市長「ルール守れよ」]

以上でございます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 12時8分